

常なる磐

つねなる いわ

令和2年12月 4日(金)

◇ 脚下照顧 (きゃっかしょうこ)

京都がメインとなる通常の修学旅行。今年は「奈良オンリーの【奈良で学ぶ旅】」。6年担任の伊藤先生が苦勞して計画した一泊二日の旅程であったが、振り返れば、学び深き修学旅行、心に残る修学旅行となった。

私個人の見解では、【奈良再発見】【また行こう、奈良】【大好き奈良】である。

最初の訪問地「飛鳥村」の【飛鳥寺】は、ある意味、強烈な印象が残っている。

本堂に通され、副住職から飛鳥寺にまつわる講話をいただいた。これがなかなか面白く、20分にも及ぶお話はかなりの聴き応えがあったが、伊藤先生によると『今日は修学旅行生相手だからサービスしてくれています。通常の倍はあります』とのこと。礼儀正しい子供たちの中でも、長光寺の長男〇君は背筋が伸び、正座姿勢が一際よい。副住職から「足を崩していいよ」と伝えられても、膝を崩さなかったのは流石だ。大変立派。ただし、起き上がりに苦勞していたが…。

ご本尊の飛鳥大仏は日本最古。後に、東大寺ガイドから「大仏」の基準を聞き、あとで納得する。飛鳥寺の開基は蘇我馬子。ともに政(まつりごと：政治)を担った聖徳太子像があるのも頷けた。

帰り際に、どこかの女子校の修学旅行生の団体とすれ違う。

彼女らにまつわる話が、本号のタイトル【脚下照顧 (きゃっかしょうこ)】である。

☆脚下照顧 (きゃっかしょうこ)

<意味>

- ・ 禅語
- ・ 自分の足元をよくよく見よという意。
- ・ 『他に向かって悟りを追求せず、まず自分の本性をよく見つめよ』という戒めの語。





飛鳥寺には、来訪者用の靴箱もあり、本校はこちらを利用した。

来訪者も少なく、余裕があったはずであるが、彼女たち一行は、ごらんのように靴を整えた。

まさに、一糸乱れず。

靴を整える様は、整えられた靴以上に美しく見えた。

そして、整えられた靴が、「彼女たちの学園での学び」と「学園が大切にしていること」を伝えている。

毎日、毎日、いつも、何時も、学園でも、家庭でも、場を問わず継続して行ってきた本物の足跡がここにあるのだ。

「素晴らしいですね」とだけ彼女たちに伝え、その後、飛鳥寺の関係者に「どちらの学校の修学旅行ですか」と学校名を尋ねると、「宝塚歌劇団の学生さんです」と返ってきた。

「なるほど納得」である。

帰り際に本堂をこっそりのぞく。修養によって整えられ、鍛えられた心が伝わる彼女たちの合掌姿である。

〇君も、これにはかなわない。

※ちなみに利用していた観光バスは「阪急交通社」。さすが親会社である。

